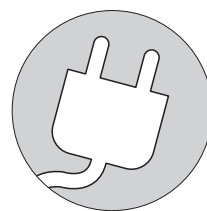
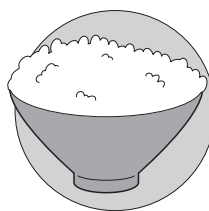
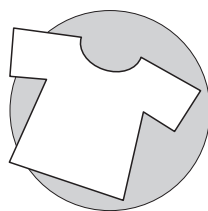


2023年

農家の家計実態調査 調査結果報告書

2024年6月



一般社団法人 家の光協会
後援／JA全国女性組織協議会



はじめに

2023年「農家の家計実態調査」の調査結果がまとまりましたので、お届けいたします。この報告書が、農家のみなさまの家計の実情の理解と日々の暮らしの向上のために少しでも参考になれば幸いです。

この調査は、過去5年間の推移に注目しながら、主に次の点に焦点をあてて、分析を行っています。

- 農家の家計実態の特徴
- 自家生産物の家計への活用状況
- 「家の光家計簿」の活用状況

また、今回は、「家の光家計簿」を使用している理由や、「家の光家計簿」を記帳をし始めて以降、お金の使い方以外で変化したことなども聞きました。この報告書では、その結果も併せて掲載しています。

家の光協会とJA全国女性組織協議会は、1978年から「家計簿から見た生活実態調査」を実施し、暮らしに数字を生かす運動に取り組んできました。また、それを引き継ぐかたちで、家の光協会では1994年から「家の光家計クリエイター」として「家の光家計簿」記帳者をつのり、家計記録の収集と集計をおこなってきました。その後2006年からは、JA全国女性組織協議会と協力し、本調査を実施してきましたが、諸般の事情により、今回をもちまして事業を終了することになりました。

約30年の長きにわたり調査にご協力いただいた「家の光家計簿」の記帳者のみなさま、JA全国女性組織協議会および事務局のみなさまには、心より感謝申し上げます。



はじめに 1

● **2023年 農家の家計実態調査のまとめ**

I 2023年 農家の家計実態調査の特徴 4

II 2023年 調査の協力者の特徴 6

III 農家の家計実態 8

IV 自家生産物の家計への活用 18

V 「家の光家計簿」活用状況 20

【協力者の声】

わが家の生活と家計の変化 15

購入を控える具体的な方法・内容 17

「家の光家計簿」についての意見・感想 23

資料 農家の家計実態調査について

2023年 農家の家計実態調査 調査票	26
「JA 全国女性組織協議会」の組織及び 活動の概要	30
「一般社団法人 家の光協会」の組織及び 活動の概要	32
「家の光家計簿」費目一覧	33

2023年 農家の家計実態調査のまとめ

I 2023年 農家の家計実態調査の特徴

2023年調査の概要

2023年農家の家計実態調査は、「家の光家計簿」への記帳者を対象に、以下の方法で実施しました。

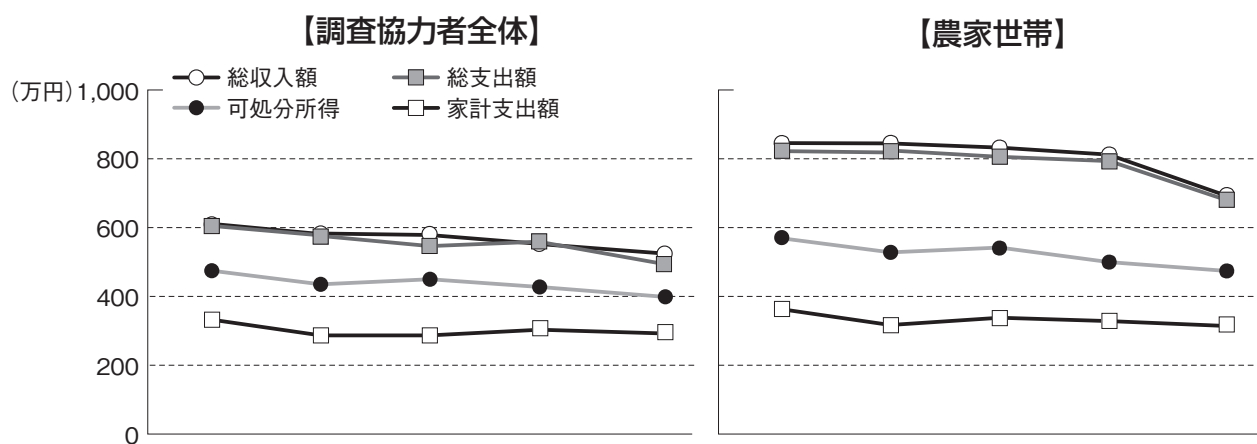
- 2023年の調査協力者は、①JA全国女性組織協議会会員のうち本調査への協力を表明してくれた人、②本調査過去協力者、③そのほか、『家の光』やチラシ等を見ての調査協力者となります。
- 調査票は、郵送での送付・回収を行いました。③の協力者は、事前に調査票を送付することなく「家の光家計簿」調査票を直接送付してくれた人となります。
- 調査票の配布・回収は、2023年12月～2024年2月の間で実施しました。
- 返送された調査票は246票でした。そのうち、性別や年代などの本人の属性が記入されていなかったり、調査票への記入が著しく不足していたり決算表が欠損している票を集計対象から除外しました。その結果、最終的には233票を有効回収票とし、集計・分析を行いました。

調査協力者は、女性が8割以上を占めています。また、平均年齢は64.1歳で、もっとも若い人は31歳、最高年齢は93歳と、幅広い年代の方による協力をいただいています。

① 可処分所得額が大幅に減少するなか、家計支出額も減少

調査協力者全体でみると、総収入額（農業収入、農外収入、その他の収入の合計）、総支出額（家計支出、農業支出・農外支出・租税、貯蓄・投資・返済の合計）ともに大幅に減少した。総収入額から農業支出・農外支出・租税を除いた可処分所得額も減少した。そのなかで家計支出額も前回から減少した。

農家世帯に限ると、総収入額、総支出額ともに前回から100万円以上減少している。また、可処分所得額、家計支出額も前回から減少した。



	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総収入額	6,090,501	5,801,411	5,778,113	5,573,337	5,134,510
総支出額	6,051,499	5,680,362	5,418,111	5,600,545	4,948,440
可処分所得	4,715,615	4,281,638	4,451,325	4,217,075	3,974,879
家計支出額	3,237,651	2,833,071	2,814,668	3,017,060	2,882,282

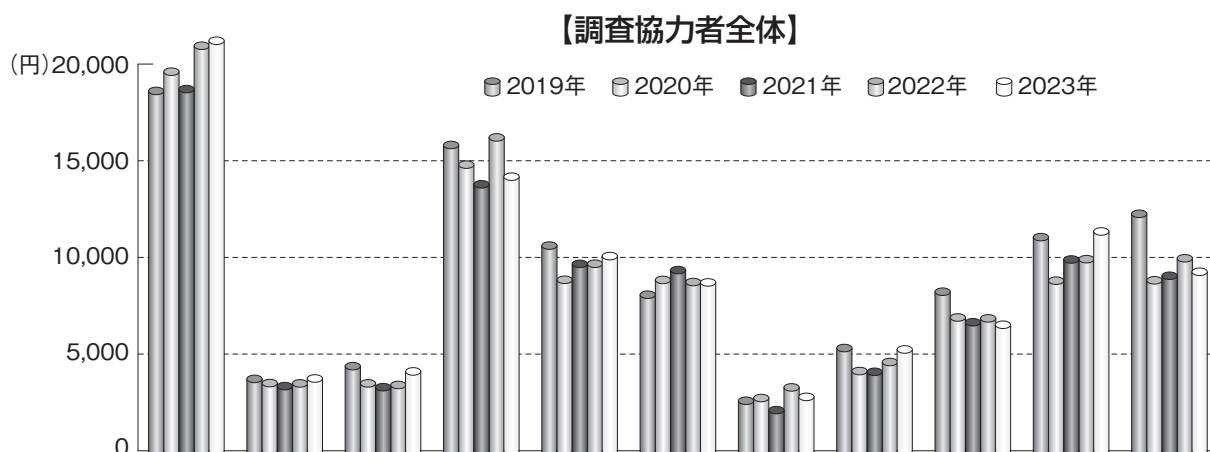
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総収入額	8,422,932	8,431,183	8,316,107	8,078,569	6,841,919
総支出額	8,233,812	8,227,941	8,036,364	7,956,579	6,747,729
可処分所得	5,703,009	5,275,362	5,387,651	4,906,629	4,661,352
家計支出額	3,602,731	3,106,009	3,313,533	3,250,735	3,139,957

②「飲食費」が例年同様最多。昨今の物価上昇の影響が垣間見られる

調査協力者の世帯における1か月1人当たりの家計支出額は98,141円で、前回はわずかに下回った。

費目別にみると、前回と同じく「飲食費」(21,427円)がもっとも多い。次いで「住居・家財・光熱水道費」(14,311円)、「交際費」(11,486円)などとなっている(金額はいずれも1か月1人当たりの金額)。

前回からは「交際費」の増加が顕著である。また、「飲食費」「衣服・身回り品費」「自動車・交通費」もそれぞれ数百円増加しており、食料品・日用品やガソリン代などの物価上昇の影響をみることができる。



	家計支出計	飲食費	嗜好費	衣服・身回り品費	住居・家財・光熱水道費	自動車・交通費	保健衛生費	学校教育費	教養文化費	こづかい・雑費	交際費	臨時費
2023年	98,141	21,427	3,805	4,165	14,311	10,278	8,910	2,843	5,043	6,655	11,486	9,218
2022年	98,672	21,071	3,724	3,606	16,328	9,731	8,908	3,334	4,775	7,023	10,042	10,130
2021年	91,937	18,889	3,592	3,465	13,889	9,781	9,590	2,381	4,318	6,898	10,020	9,114
2020年	92,440	19,724	3,743	3,677	14,915	9,062	8,974	2,999	4,294	7,013	9,005	9,034
2019年	101,656	18,691	3,934	4,535	16,037	10,452	8,269	2,798	5,060	8,360	11,195	12,325

③自家生産物の家計への積極的な活用がうかがえる

自家生産物を家計の一部として活用しており、その活用額を家計簿に記帳している世帯は、調査協力者全体のうち17.6%と2割弱の水準にとどまるが、ここ数年は上昇傾向にある。農家世帯における自家生産物活用率は34.5%で、前回から6.3ポイントの大幅な上昇となった。

家計簿に記帳された自家生産物活用額は調査協力者全体で年間約13.8万円、農家世帯の自家生産物の家計としての活用額は約16.7万円で、いずれも前回は1万円以上上回った。

物価上昇のなか、自家生産物の家計への積極的な活用が行われたことがうかがえる。

	自家生産物を活用・家計簿記帳している世帯の割合 (%)		自家生産物活用額 (円)	
	調査協力者全体	農家世帯	調査協力者全体	農家世帯
2023年	17.6	34.5	138,274	166,567
2022年	16.1	28.2	124,506	153,697
2021年	16.2	28.6	123,838	150,670
2020年	16.1	30.5	157,733	197,514
2019年	14.8	23.2	172,746	223,981

Ⅱ 2023年 調査の協力者の特徴

調査協力者の大部分は女性。70歳以上の調査協力者は4割

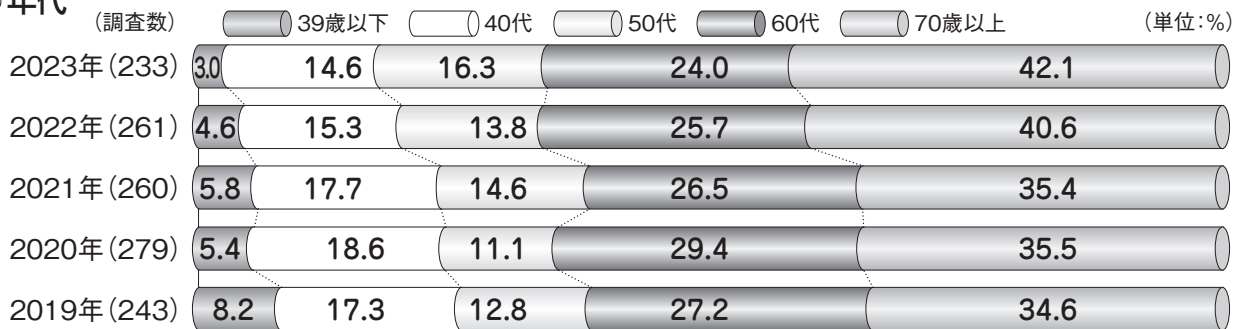
例年と同様、協力者の大部分は女性だった。

年代では70歳以上の構成比が年々上昇し、40代以下の構成比が低下した。今回調査では39歳以下の協力者が必要数を下回ったため、49歳以下としてまとめて分析した。

①性別



①年代

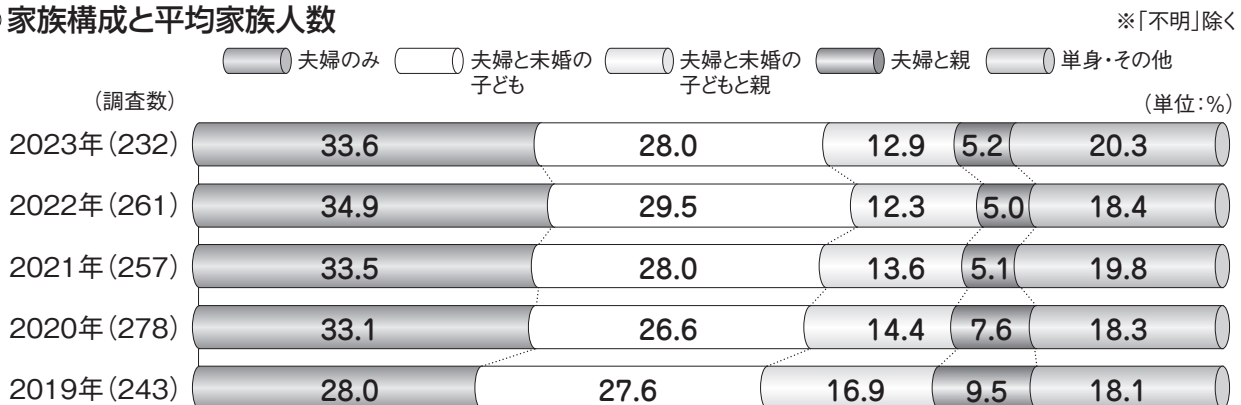


「夫婦のみ世帯」「夫婦と未婚の子ども」世帯がそれぞれ3割前後を占める

家族構成では、「夫婦のみ」が3割強、「夫婦と未婚の子ども」が3割弱、「夫婦と未婚の子どもと親」の3世代家族は1割強、「夫婦と親」世帯は1割弱、「単身・その他」が2割という構成比であった。

なお、平均家族人数は2.85人でもっとも少なくなった。

①家族構成と平均家族人数



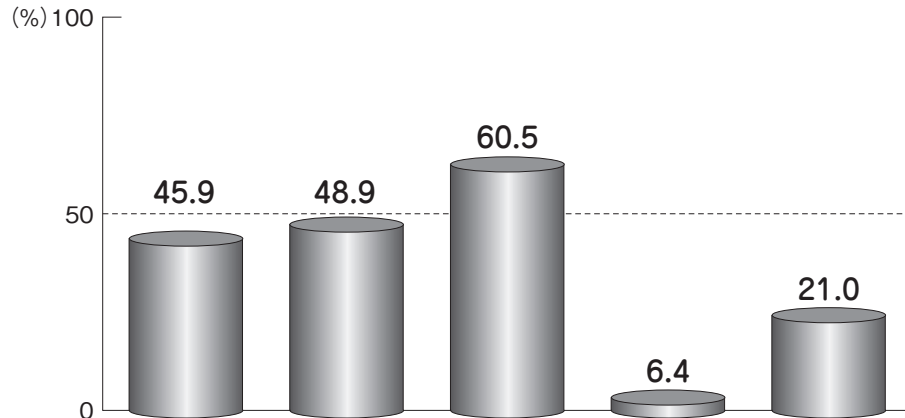
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
平均家族人数(人)	3.17	2.99	3.15	2.90	2.85

❁ 「年金」受給世帯が6割、給与収入、農業収入がある世帯がそれぞれ5割弱

世帯の収入源では、「年金」が60.5%でもっとも多い。次いで「給与収入」「農業収入」の順である。

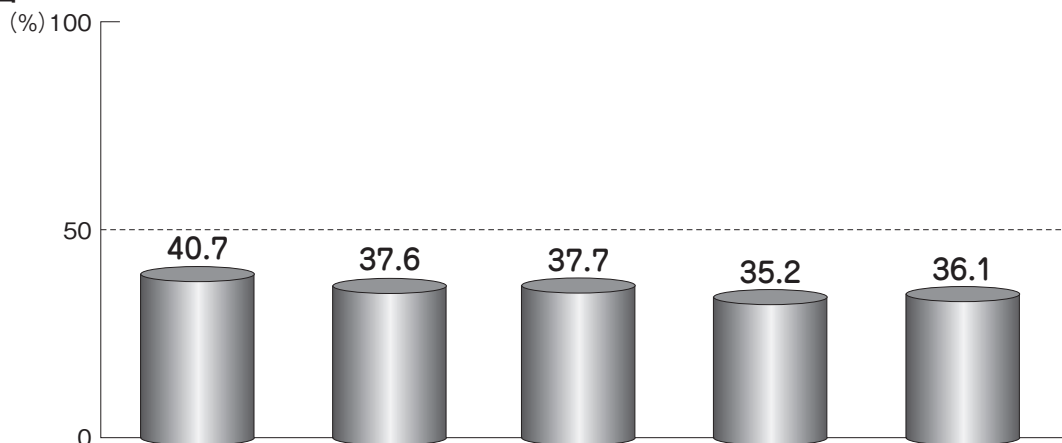
農家世帯（農業収入が年間15万円以上ある世帯）の割合は36.1%で前回はわずかに上回った。協力者の年代別にみると、協力者が49歳以下の世帯では2020年以降継続して低下している。

●世帯の収入源



		(調査数)	農業収入	給与収入	年金	仕送り・こづかい	その他の収入
全 体		(233)	45.9	48.9	60.5	6.4	21.0
年代別	49歳以下	(41)	24.4	95.1	2.4	4.9	12.2
	50代	(38)	31.6	86.8	13.2	7.9	10.5
	60代	(56)	57.1	48.2	67.9	7.1	30.4
	70歳以上	(98)	54.1	15.3	99.0	6.1	23.5
参 考	2022年	(261)	45.2	49.0	60.9	5.7	23.8
	2021年	(260)	48.5	51.2	60.8	6.9	20.0
	2020年	(279)	45.5	48.7	61.6	6.8	24.4
	2019年	(243)	49.4	55.6	57.6	9.1	24.7

●農家世帯の割合



		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
全 体		40.7	37.6	37.7	35.2	36.1
年代別	49歳以下	14.5	17.9	14.8	13.5	12.2
	50代	45.2	32.3	26.3	22.2	23.7
	60代	54.5	54.9	52.2	52.2	53.6
	70歳以上	47.6	38.4	46.7	39.6	40.8

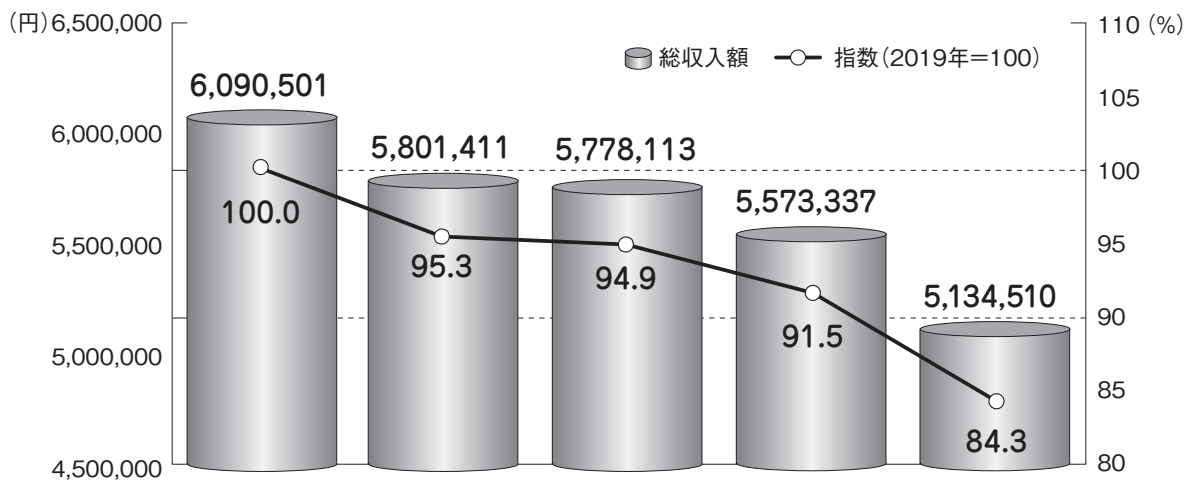
Ⅲ 農家の家計実態

❁ 総収入額は約513万円、前回から大きく減少。とくに農業収入の減少が顕著

1世帯当たりの総収入額は約513万円で、前回から大きく減少した（約44万円の減）。収入の内訳をみると、農業収入（現金収入）が約91万円（前回から約34万円減）で、減少が顕著である。農外収入（現金収入）も約331万円で前回から約18万円減少している。

年代別にみると、総収入額がもっとも多いのは協力者が49歳以下の世帯である（約557万円）。この年代では農外収入（現金収入）が約512万円と他の年代に比べてとくに多くなっている。農業収入（現金収入）は協力者が60代の世帯で約206万円と、他の年代に比べてとくに多い。

● 収入額の推移（単位：円、指数は%）



	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総収入額	6,090,501	5,801,411	5,778,113	5,573,337	5,134,510
農業収入（現金収入）	1,259,720	1,332,726	1,279,601	1,257,569	914,125
農業収入（自家消費）	25,592	25,440	20,005	20,036	24,331
農外収入（現金収入）	3,626,402	3,579,399	3,581,824	3,491,449	3,308,553
その他の収入	1,178,787	863,846	896,683	804,283	887,501

● 項目別収入額【2023年詳細】（単位：円）

		(調査数)	総収入額	農業収入 (現金収入)	農業収入 (自家消費)	農外収入 (現金収入)	その他の 収入
全体		(233)	5,134,510	914,125	24,331	3,308,553	887,501
年代別	49歳以下	(41)	5,571,033	312,058	2,845	5,122,462	133,668
	50代	(38)	4,102,252	598,569	7,342	2,946,011	550,330
	60代	(56)	5,342,951	2,056,731	37,726	2,618,427	630,067
	70歳以上	(98)	5,233,038	635,451	32,255	3,084,608	1,480,724
農家区分	農家	(84)	6,841,919	2,517,233	57,505	2,760,680	1,506,501
	非農家	(149)	4,171,944	10,360	5,629	3,617,421	538,534

農家世帯の総収入額が前回から大きく減少

年代別に総収入額の推移をみると、協力者が60代の世帯で大きく減少している。また、協力者が50代の世帯でも前回から約30万円減少しており、この5年間は継続して減少傾向にある。

農家世帯の総収入額は約684万円で前回から約124万円と大きく減少した。一方、非農家世帯の総収入額は約417万円で、前回からは微減にとどまった（約4万円の減）。

●総収入額の推移（単位：円）

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
全体		6,090,501	5,801,411	5,778,113	5,573,337	5,134,510
年代別	49歳以下	5,596,455	5,156,948	5,558,327	5,194,811	5,571,033
	50代	6,618,206	5,932,258	5,822,394	4,400,926	4,102,252
	60代	6,317,079	6,754,867	6,494,230	7,055,119	5,342,951
	70歳以上	6,082,381	5,406,862	5,376,708	5,220,606	5,233,038
農家区分	農家	8,422,932	8,431,183	8,316,107	8,078,569	6,841,919
	非農家	4,486,955	4,214,481	4,209,652	4,209,541	4,171,944

農家世帯の農業収入は幅広い年代で減少

年代別に農業収入（現金収入）の推移をみると、協力者の年代にかかわらず減少している。とくに協力者が60代の世帯で約92万円と減少幅が大きい。また、協力者が49歳以下の世帯や協力者が70歳以上の世帯でも、農業収入（現金収入）が前回から10万円以上減少している。

なお、農家世帯の農業収入は約252万円で、前回から約103万円減少し、この5年間でもっとも低い金額となった。

●農業収入（現金収入）額の推移（単位：円）

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
全体		1,259,720	1,332,726	1,279,601	1,257,569	914,125
年代別	49歳以下	314,161	654,136	313,161	434,470	312,058
	50代	2,936,676	2,105,058	1,683,405	617,117	598,569
	60代	1,608,823	2,428,188	2,131,162	2,980,216	2,056,731
	70歳以上	1,064,462	642,781	1,128,580	790,023	635,451
農家区分	農家	3,079,490	3,530,921	3,352,831	3,549,855	2,517,233
	非農家	8,628	6,229	9,748	9,698	10,360

❁家計支出額は前回から減少。農業支出、貯蓄・投資・返済の支出も減少

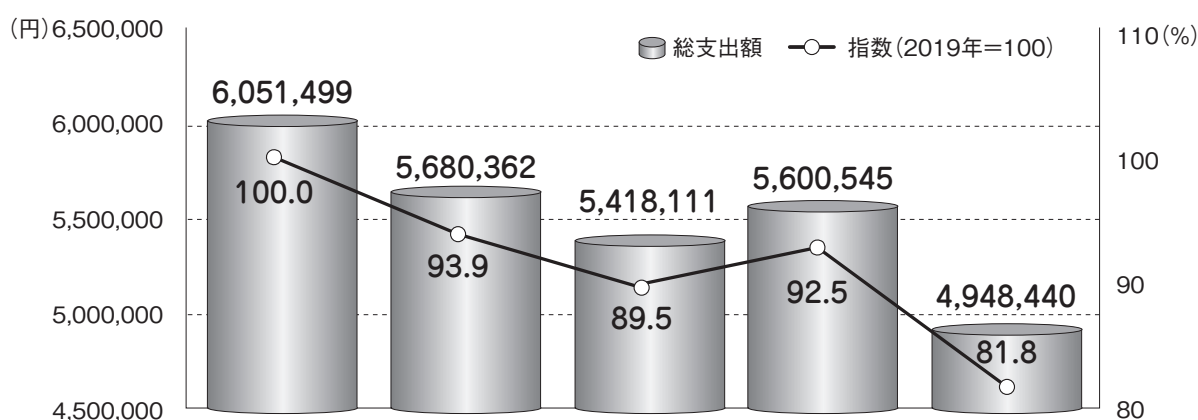
総支出額は約 495 万円で前回（約 560 万円）から約 65 万円減少した。

内訳をみると、家計支出額が 10 万円以上減少（約 302 万円→約 288 万円）している。農業支出も前回から大きく減少した（約 34 万円の減）。農業収入の減少とあわせると、今回調査の協力者は前回調査の協力者に比べて経営規模の大きい農家が少なく、そのことが農業関連の収入額・支出額の減少として表れたと推察される。

なお、貯蓄・投資・返済計も約 12 万円減少、2019 年以降減少傾向が続いている。総支出額は農家世帯の方が多く、約 675 万円にのぼる。

家計支出額がもっとも多い年代は、協力者が 49 歳以下の世帯である。また、農家世帯では非農家世帯より家計支出が約 40 万円多くなっている。

❁支出額の推移（単位：円、指数は%）



	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総支出額	6,051,499	5,680,362	5,418,111	5,600,545	4,948,440
家計支出額	3,237,651	2,833,071	2,814,668	3,017,060	2,882,282
貯蓄・投資・返済計	1,438,962	1,327,518	1,276,655	1,200,015	1,092,597
貯蓄	1,140,305	1,022,991	995,742	851,915	862,542
投資	82,333	91,853	63,081	111,781	59,453
返済	216,324	212,674	217,832	236,319	170,602
農業・農外・租税計	1,374,886	1,519,773	1,326,788	1,383,470	973,561
農業支出	844,216	907,788	797,470	858,436	517,562
農外支出	155,343	205,395	148,795	175,742	131,239
租税	375,327	406,590	380,523	349,292	324,760

❁項目別支出額【2023年詳細】（単位：円）

		(調査数)	総支出額	家計支出額	貯蓄・投資・返済	農業・農外・租税
全体		(233)	4,948,440	2,882,282	1,092,597	973,561
年代別	49歳以下	(41)	4,877,989	3,274,603	1,019,299	584,087
	50代	(38)	4,149,150	2,681,237	1,137,237	330,676
	60代	(56)	5,236,782	2,636,835	863,951	1,735,996
	70歳以上	(98)	5,123,077	2,936,359	1,236,608	950,110
農家区分	農家	(84)	6,747,729	3,139,957	1,521,395	2,086,377
	非農家	(149)	3,934,077	2,737,015	850,859	346,203

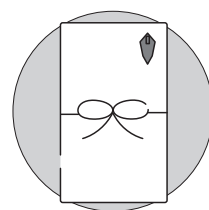
❁ 総支出額も幅広い年代で減少。とくに 60代の世帯で顕著

総支出額は、協力者の年代にかかわらず前回から減少した。とくに協力者が 60 代の世帯では前回より約 180 万円低く、減少が顕著だった。次いで減少幅が大きいのは協力者が 49 歳以下の世帯で、前回から 30 万円以上減少した。

農家世帯の総支出額は前回から約 121 万円の減少（約 796 万円→約 675 万円）。2019 年以降継続して減少していたが、今回は急激な減少となった。非農家世帯では 40 万円近い減少だった（約 432 万円→約 393 万円）。

● 総支出額の推移（単位：円）

		2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
全 体		6,051,499	5,680,362	5,418,111	5,600,545	4,948,440
年代別	49歳以下	5,474,453	4,872,801	4,753,452	5,185,222	4,877,989
	50 代	6,403,504	6,017,875	5,206,288	4,285,828	4,149,150
	60 代	6,484,456	6,479,138	6,278,676	7,036,266	5,236,782
	70 歳以上	6,007,328	5,459,592	5,300,879	5,343,310	5,123,077
農家区分	農家	8,233,812	8,227,941	8,036,364	7,956,579	6,747,729
	非農家	4,551,158	4,143,027	3,834,232	4,317,969	3,934,077



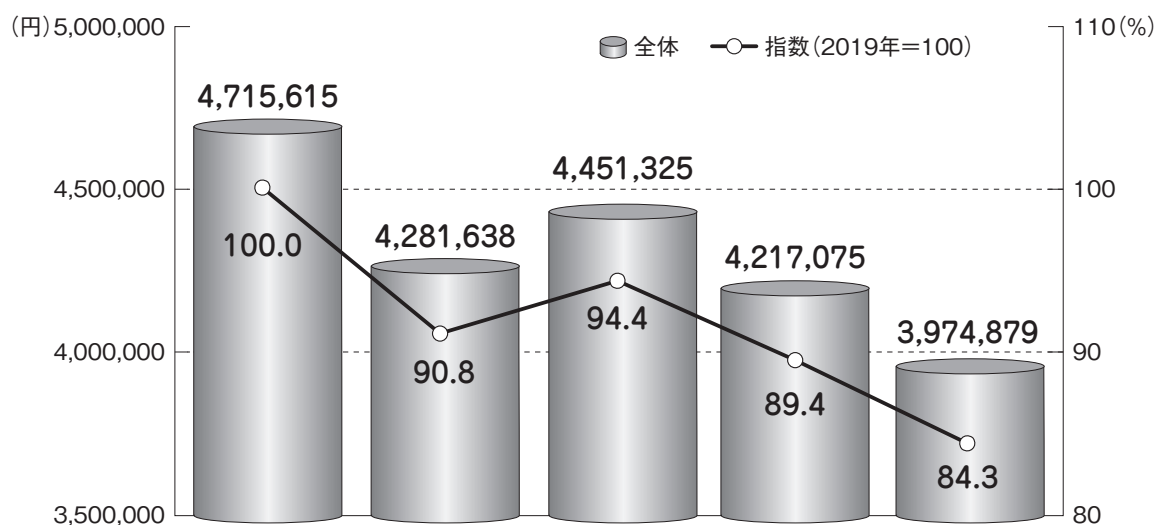
可処分所得は農家世帯、非農家世帯ともに減少

総収入額から「農業支出・農外支出・租税計」を除いた金額を可処分所得として算出したところ、全体では約397万円で前回から減少した。

協力者の年代別にみると、協力者が50代の世帯では前回から40万円近く増加した（約343万円→約382万円）。一方、他の年代ではいずれも前を下回った。とくに協力者が49歳以下の世帯と協力者が70歳以上の世帯では減少幅が大きい。

農家世帯における可処分所得は約466万円、非農家世帯では約359万円で、それぞれ前回から約25万円の減少となった。

可処分所得額の推移（単位：円、指数は%）



		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
全 体		4,715,615	4,281,638	4,451,325	4,217,075	3,974,879
年代別	49歳以下	5,066,168	4,318,412	5,099,501	4,762,648	4,293,902
	50代	4,050,832	4,090,460	4,284,570	3,433,370	3,818,474
	60代	4,638,950	4,494,495	4,502,722	4,133,724	3,500,786
	70歳以上	4,762,447	4,140,314	4,060,130	4,268,284	4,172,967
農家区分	農家	5,703,009	5,275,362	5,387,651	4,906,629	4,661,352
	非農家	4,036,782	3,681,981	3,851,773	3,841,696	3,587,874

❁家計支出額も前回から減少。農家世帯、非農家世帯ともに減少

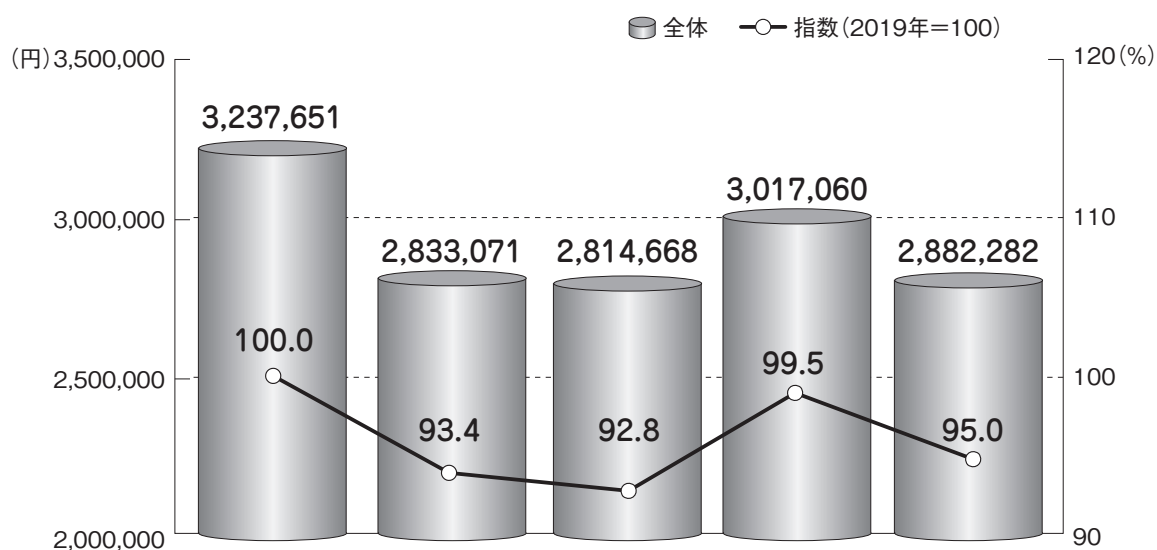
家計支出額は全体で約288万円と、前回から約13万円減少した。可処分所得額の減少に伴い家計支出額も減少したことになる。

協力者の年代別にみると、協力者が50代の世帯では前回と同程度だが、他の年代（49歳以下、60代以上）ではいずれも減少した。

農家区分別にみると、農家世帯、非農家世帯ともに家計支出額は前回から10万円以上減少した（農家世帯：約325万円→約314万円、非農家世帯：約289万円→約274万円）。

なお、可処分所得中の家計支出の構成比は前回から引き続き7割を超えた。

●家計支出額の推移（単位：円、指数は%）



		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
全体		3,237,651	2,833,071	2,814,668	3,017,060	2,882,282
年代別	49歳以下	3,490,996	2,828,555	2,952,791	3,435,482	3,274,603
	50代	2,786,656	2,699,910	2,448,647	2,674,653	2,681,237
	60代	3,360,523	2,778,820	2,856,668	2,855,749	2,636,835
	70歳以上	3,120,555	2,922,759	2,842,770	3,030,047	2,936,359
農家区分	農家	3,602,731	3,106,009	3,313,533	3,250,735	3,139,957
	非農家	2,986,658	2,668,367	2,512,886	2,889,853	2,737,015

●可処分所得に占める家計支出額の構成比の推移（単位：%）

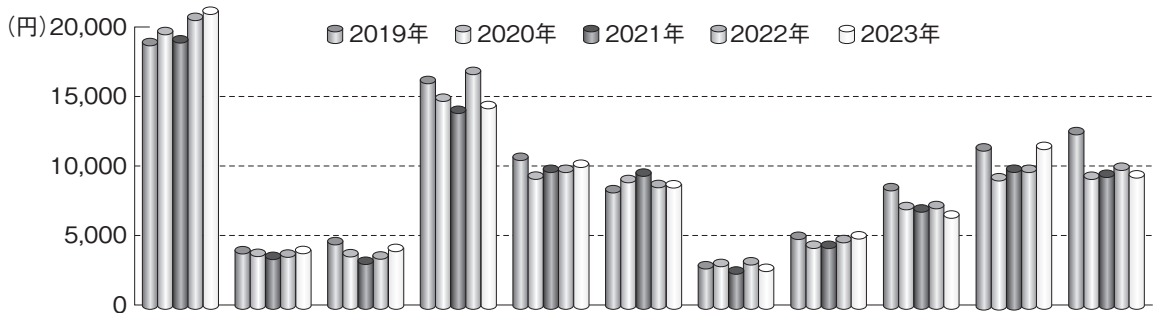
		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
全体		68.7	66.2	63.2	71.5	72.5
年代別	49歳以下	68.9	65.5	57.9	72.1	76.3
	50代	68.8	66.0	57.2	77.9	70.2
	60代	72.4	61.8	63.4	69.1	75.3
	70歳以上	65.5	70.6	70.0	71.0	70.4
農家区分	農家	63.2	58.9	61.5	66.3	67.4
	非農家	74.0	72.5	65.2	75.2	76.3

❁ 「飲食費」「衣服・見回り品費」「自動車・交通費」などの支出が増加

例年同様「飲食費」(21,427円)がもっとも多く、家計支出計の2割を占める。次いで「住居・家財・光熱水道費」(14,311円)、「交際費」(11,486円)、「自動車・交通費」(10,278円)、「臨時費」(9,218円)など。

前回と比べ、「交際費」(+1,444円)の増加が顕著である。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、流行前の水準に戻った。また、「飲食費」「衣服・身回り品費」「自動車・交通費」などでも数百円の増加がみられる。食料品や日用品などの商品価格の値上げやガソリン価格の上昇の影響がみられる。

● 1か月1人当たりの家計費目別支出額の推移 (単位：円)



	(調査数)	家計支出計	飲食費	嗜好費	衣服・身回り品費	住居・家財・光熱水道費	自動車・交通費	保健衛生費	学校教育費	教養文化費	こづかい・雑費	交際費	臨時費
2023年	(233)	98,141	21,427	3,805	4,165	14,311	10,278	8,910	2,843	5,043	6,655	11,486	9,218
2022年	(261)	98,672	21,071	3,724	3,606	16,328	9,731	8,908	3,334	4,775	7,023	10,042	10,130
2021年	(260)	91,937	18,889	3,592	3,465	13,889	9,781	9,590	2,381	4,318	6,898	10,020	9,114
2020年	(279)	92,440	19,724	3,743	3,677	14,915	9,062	8,974	2,999	4,294	7,013	9,005	9,034
2019年	(243)	101,656	18,691	3,934	4,535	16,037	10,452	8,269	2,798	5,060	8,360	11,195	12,325

● 1か月1人当たりの家計費目別支出額の推移指数 [2019年=100] (単位：%)

	(調査数)	家計支出計	飲食費	嗜好費	衣服・身回り品費	住居・家財・光熱水道費	自動車・交通費	保健衛生費	学校教育費	教養文化費	こづかい・雑費	交際費	臨時費
2023年	(233)	96.5	114.6	96.7	91.8	89.2	98.3	107.8	101.6	99.7	79.6	102.6	74.8
2022年	(261)	97.1	112.7	94.7	79.5	101.8	93.1	107.7	119.2	94.4	84.0	89.7	82.2
2021年	(260)	90.4	101.1	91.3	76.4	86.6	93.6	116.0	85.1	85.3	82.5	89.5	73.9
2020年	(279)	90.9	105.5	95.1	81.1	93.0	86.7	108.5	107.2	84.9	83.9	80.4	73.3
2019年	(243)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

❁ 1か月1人当たりの家計支出額は70歳以上の高年層世帯で多め

協力者の年代別に1か月1人当たりの家計費目別の支出額をみると、協力者が70歳以上の世帯で家計支出額がとくに多くなっている。なかでも、「保健衛生費」「交際費」「臨時費」の支出が他の年代の世帯に比べて多い。

農家世帯における1か月1人当たりの家計支出額は100,245円で、非農家世帯(96,955円)をやや上回る。費目別にみると、とくに「交際費」「臨時費」の支出が多い。一方、非農家世帯は農家世帯に比べて「飲食費」の支出が多くなっている。

❶ 1か月1人当たりの家計費目別支出額【2023年詳細】(単位：円)

	(調査数)	家計支出計	飲食費	嗜好費	衣服・身回り品費	住居・家財・光熱水道費	自動車・交通費	保健衛生費	学校教育費	教養文化費	こづかい・雑費	交際費	臨時費	
全体	(233)	98,141	21,427	3,805	4,165	14,311	10,278	8,910	2,843	5,043	6,655	11,486	9,218	
年代別	49歳以下	(41)	80,322	18,794	2,839	3,610	16,434	7,426	4,729	6,037	4,049	7,136	4,037	5,231
	50代	(38)	88,631	24,303	3,472	5,975	12,453	13,262	5,271	6,054	2,737	5,317	5,732	4,055
	60代	(56)	93,485	20,653	4,245	3,954	12,880	11,508	7,708	1,919	5,599	7,097	11,994	5,928
	70歳以上	(98)	111,942	21,856	4,087	3,815	14,962	9,610	12,758	790	6,034	6,719	16,543	14,768
区分	農家	(84)	100,245	19,491	3,582	3,591	13,457	9,610	9,623	1,646	5,450	5,922	13,974	13,899
	非農家	(149)	96,955	22,519	3,931	4,488	14,793	10,654	8,509	3,518	4,813	7,068	10,083	6,579

「臨時費」の内容

「家の光家計簿」では、臨時費に含まれるものを「自家の婚礼、葬儀、還暦などの祝い、法事、住宅の新築・増改築など、多額の臨時的支出」としています。

【協力者の声 わが家の生活と家計の変化】

今年は子どもが結婚したり孫が生まれたり、うれしい反面お金がかかり、貯蓄の必要性を感じた。来年も2人めの孫が生まれるのでお金が必要になる。(山梨県・73歳)

残された勤労期間を考えると、もっとコンパクトな生活にしなくてはと強く実感している。

2024年からの新NISAは、熟考して年金にプラスになるように選択しなくてはと書籍などで勉強しているが、それでも悔いのない選択はなかなか難しい。(宮城県・56歳)

夫は来年から年金受給が始まる。収入が以前の3分の1以下になったので、長期にわたり赤字状態だが、老後資金のため、お互いクレジットカードを持たず、レジャーやぜいたく品などの出費を控えて貯金をしている。(山口県・59歳)

今年は夫が体調を崩し、入院と通院で医療費が増えた。また、法事などで出費がかさんだ。これからは自分の身の丈にあった家計を心がけたい。

家計簿をつけることによって、支出の無駄なところがよくわかったと思う。

(兵庫県・69歳)

高齢者2人の生活になり4年めを迎えた。田舎での暮らしでは、さまざまなおつきあいや風習がコロナ禍でも変わらず続いている。わが家は本家ということもあり、交際費を減らすことができない。農業収入の減少のなかでは、負担が大きい。

(栃木県・69歳)

❁支出が増えた印象が強いのは「飲食費」「嗜好費」「自動車交通費」

前年に比べて支出が増えた家計費目では、「飲食費」(60.4%)が突出している。次いで「住居・家財・光熱水道費」(40.1%)。「嗜好費」「自動車交通費」「保健衛生費」「交際費」も30%を上回った。支出が増えた理由(自由記述)では、食料品やガソリン代、電気代の値上げなど、物価高騰の影響が多くみられた。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う行動制限緩和により、外食やレジャーにかかる費用が増加したという回答も目立った。

一方、支出が減った家計費目は「衣服・身回り品費」(31.2%)、「教養文化費」(17.0%)などだった。支出が減った理由(自由記述)では、食料品の買い物に行く回数を減らす、特売品や値下げ品を購入する、衣服などは新しく買わずに着回す工夫をする、リユース品を買うようにするなどの記述があった。背景には、物価高騰により飲食費などの支出が増えたため、その他の購入品の価格を抑えざるをえないという事情があると推測される。保健衛生費では、マスクやウイルス対策の除菌製品の購入の減少などの理由もみられた。(なお、記帳された家計簿での金額の増減ではなく、日常生活の中での印象による回答のため、費目別の支出額の増減の結果とは異なる場合がある。)

●前年に比べて支出が増えた家計費目／支出が減った家計費目

※「不明」除く

	(調査数)	飲食費	嗜好費	衣服・身回り品費	住居・家財・光熱水道費	自動車交通費	保健衛生費	学校教育費	教養文化費(レジャー費含む)	こづかい・雑費	交際費	臨時費	貯蓄・投資	特になかった
支出が増えた費目	2023年(222)	60.4	30.2	16.2	40.1	34.2	32.9	9.9	22.5	14.0	33.3	18.5	7.2	4.5
	2022年(249)	49.4	24.9	12.0	50.6	27.7	32.5	12.9	14.9	12.0	25.7	21.7		7.2
支出が減った費目	2023年(218)	12.4	12.8	31.2	12.4	10.6	10.1	5.5	17.0	13.3	13.8	6.0	15.6	28.9
	2022年(243)	9.5	10.7	29.6	5.8	16.5	11.1	6.6	23.0	14.8	23.0	5.8		28.0

日常生活に必要な衣食住への支出、嗜好的な支出を意識的に抑えている

今回は、物価高騰のなか意識的に購入を控えるようになった費目についても聞いた。その結果をみると、「衣服・身回り品費」(43.2%)や「飲食費」(32.4%)、「嗜好費」(24.8%)、「教養文化費」(21.2%)、「住居・家財・光熱水道費」(19.8%)が上位にあがった。日常生活に必要な衣食住への支出、嗜好品やレジャーなど生活必需品以外の支出の両面で抑えることで、物価高騰を乗り切ろうとしている様子が見える。

具体的な控え方についての記述をみると、支出が減った理由にあったような、特売品や安売り品の利用、リユース品の購入、いま持っているものを最大限利用する方法がみられた。また、自家生産物やいただきものの活用による飲食費の抑制、電気をこまめに消すことなどでの光熱水道費の抑制といった家計防衛手段も目についた。

2023年に意識的に購入を控えるようになった費目

※「不明」除く

	(調査数)	飲食費	嗜好費	衣服・身回り品費	住居・家財・光熱水道費	自動車交通費	保健衛生費	学校教育費	教養文化費(レジャー費含む)	こづかい・雑費	交際費	臨時費	貯蓄・投資	特になかった
控えるようになった費目	(222)	32.4	24.8	43.2	19.8	6.8	2.3	0.5	21.2	11.3	7.7	1.8	5.9	16.2

購入を控える具体的な方法・内容

抜粋。カッコ内は購入を控えるようになった費目

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・衣類は新しいものを買わずに、いまあるものを着倒す
(衣服・身回り品費) | <ul style="list-style-type: none"> ・自分で野菜づくりを始めた
(飲食費) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・同等品なら安いほうを購入したり、割引品を選んだりした。服や雑貨はリユースショップですすんで購入した
(飲食費、嗜好費、衣服・身回り品費、住居・家財・光熱水道費) | <ul style="list-style-type: none"> ・車の使用を控え、自転車か徒歩で出かけるようにした
(自動車交通費) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・野菜は近所の人からもらうものでまかなうようにし、購入を控えた
(飲食費) | <ul style="list-style-type: none"> ・電気を使用していないときにこまめに消すようにする
(住居・家財・光熱水道費) |

IV 自家生産物の家計への活用

自家生産物活用額は、農家世帯では増加、非農家世帯では減少

調査協力者のうち、自家生産物を家計の一部として活用しており、その活用額を家計簿に記帳している世帯は17.6%で、前回をやや上回った。

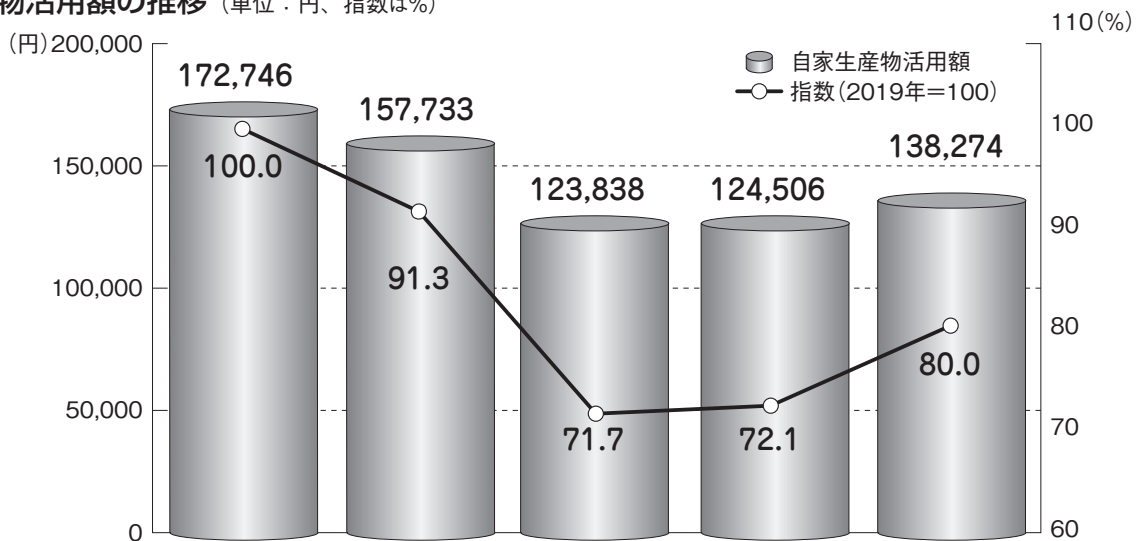
自家生産物活用額を家計簿に記帳している世帯における自家生産物活用額（家計の一部としての活用額）は年間約13.8万円で前回、前々回を上回った。農家世帯の自家生産物の家計としての活用額は約16.7万円で前回を上回った一方、非農家世帯では約7.0万円で前回を下回った。

なお、家計支出総額に占める自家生産物活用額の割合は4.5%だった。

自家生産物を活用し、その額を家計簿に記帳している世帯の割合



自家生産物活用額の推移 (単位：円、指数は%)



		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
自家生産物活用世帯		172,746	157,733	123,838	124,506	138,274
農家区分	農家	223,981	197,514	150,670	153,697	166,567
	非農家	82,098	59,810	70,174	77,072	69,899

家計支出に占める自家生産物活用額の割合の推移 (単位：%)

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
自家生産物活用世帯		4.3	4.6	4.5	4.1	4.5
農家区分	農家	5.3	5.3	4.6	4.8	4.8
	非農家	2.6	2.9	4.5	3.1	3.7

🌸 おもに飲食費と交際費に活用。 飲食費の1割以上を自家生産物が賄う

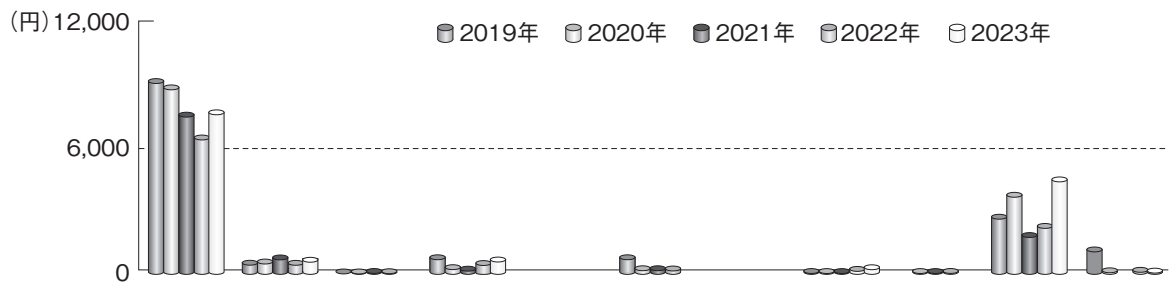
費目別の自家生産物活用額をみると、その大部分は「飲食費」(7,618円)と「交際費」(4,497円)に活用されている。前回からは、とくに「交際費」への支出が大きく増加した。

費目ごとの家計支出額に対する自家生産物活用額の割合は、「飲食費」が12.6%でもっとも多い。次いで「交際費」(7.2%)など。「飲食費」の活用率はこの5年間一貫して1割を超えている。

すでにみてきたように「飲食費」や「交際費」への支出が増えているなか、その支出を抑えるために自家生産物を利用していることがうかがえる。

※なお、「自動車・交通費」「学校教育費」は自家生産物活用額の記帳費目の対象外としているため、金額は記載されない

① 1か月当たりの家計費目別自家生産物活用額の推移 (単位：円)



	(調査数)	家計支出計	飲食費	嗜好費	衣服・身回り品費	住居・家財・光熱水道費	自動車・交通費	保健衛生費	学校教育費	教養文化費	こづかい・雑費	交際費	臨時費
2023年	(41)	13,881	7,618	789	14	703		0		256	3	4,497	1
2022年	(42)	10,375	6,629	608	91	313		182		90	26	2,404	32
2021年	(42)	10,318	7,507	673	78	113		162		57	8	1,720	0
2020年	(45)	13,146	8,719	401	67	130		126		42	11	3,646	4
2019年	(36)	14,406	9,064	369	11	628		721		38	0	2,556	1,019

② 1か月当たりの自家生産物活用額の家計費目別構成比の推移 (単位：%)

	(調査数)	家計支出計	飲食費	嗜好費	衣服・身回り品費	住居・家財・光熱水道費	自動車・交通費	保健衛生費	学校教育費	教養文化費	こづかい・雑費	交際費	臨時費
2023年	(41)	100.0	54.9	5.7	0.1	5.1		0.0		1.8	0.0	32.4	0.0
2022年	(42)	100.0	63.9	5.9	0.9	3.0		1.8		0.9	0.3	23.2	0.3
2021年	(42)	100.0	72.8	6.5	0.8	1.1		1.6		0.6	0.1	16.7	0.0
2020年	(45)	100.0	66.3	3.1	0.5	1.0		1.0		0.3	0.1	27.7	0.0
2019年	(36)	100.0	62.9	2.6	0.1	4.4		5.0		0.3	0.0	17.7	7.1

③ 自家生産物活用世帯における家計費目別自家生産物活用率の推移 (単位：%)

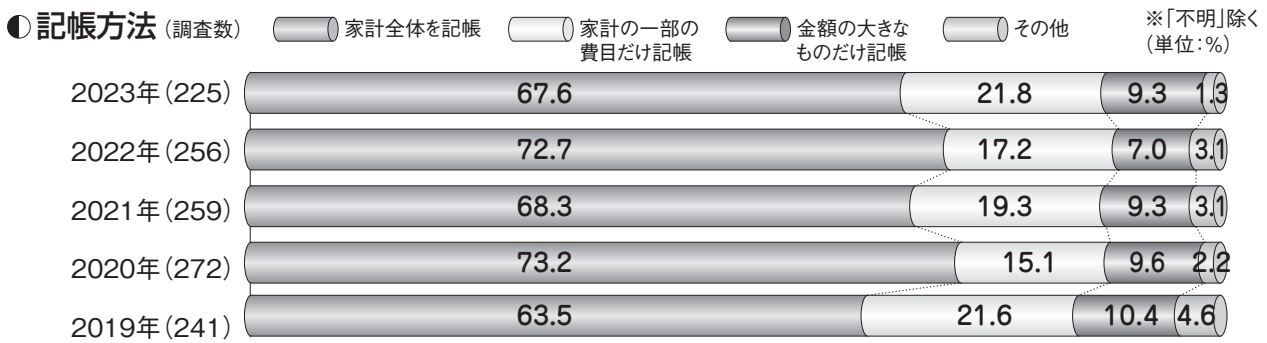
	(調査数)	家計支出計	飲食費	嗜好費	衣服・身回り品費	住居・家財・光熱水道費	自動車・交通費	保健衛生費	学校教育費	教養文化費	こづかい・雑費	交際費	臨時費
2023年	(41)	4.8	12.6	2.7	1.7	1.7		0.0		1.8	0.7	7.2	0.0
2022年	(42)	4.1	12.8	4.7	1.3	4.2		1.4		2.2	1.2	6.5	6.3
2021年	(42)	4.5	15.9	4.1	0.8	0.3		0.1		0.6	0.0	4.4	0.0
2020年	(45)	4.6	13.4	5.0	0.1	0.2		1.1		1.7	2.2	8.5	2.2
2019年	(36)	4.3	12.9	1.9	0.0	1.2		0.3		0.4	0.0	4.4	8.3

V 「家の光家計簿」 活用状況

❁ 家計全体を記帳する人は7割弱

家計簿の記帳方法では、「家計全体を記帳」する人は67.6%、「家計の一部の費目だけ記帳」が21.8%、「金額の大きなものだけを記帳」が9.3%などとなっている。

なお、今回は、家計簿を記帳する範囲として、生計をともにする家族全員の収支を記帳しているか、それとも自分の収支のみを記帳しているかを聞いた。その結果をみると、「生計を共にする家族がおり、その家族のぶんも記帳している」が58.3%、「生計を共にする家族がいるが、自分の収支のみを記帳している」が29.4%、「生計を共にする家族はいない（単身世帯）」が12.4%となっていた。49歳以下の世帯や農家世帯では「生計を共にする家族がおり、その家族のぶんも記帳している」割合が高く、50代では「家計全体を記帳」、「生計を共にする家族がおり、その家族のぶんも記帳している」世帯が低い傾向がみられた。



● 記帳方法【2023年詳細】

※「不明」除く (単位：%)

		(調査数)	家計全体を記帳	家計の一部の費目だけ記帳	金額の大きなものだけ記帳	その他
全体		(225)	67.6	21.8	9.3	1.3
年代別	49歳以下	(41)	68.3	14.6	17.1	-
	50代	(38)	39.5	42.1	13.2	5.3
	60代	(54)	61.1	25.9	11.1	1.9
	70歳以上	(92)	82.6	14.1	3.3	-
農家区分	農家	(80)	65.0	25.0	7.5	2.5
	非農家	(145)	69.0	20.0	10.3	0.7

● 家計簿の記帳範囲【2023年詳細】

※「不明」除く (単位：%)

		(調査数)	生計を共にする家族がおり、その家族のぶんも記帳している	生計を共にする家族がいるが、自分の収支のみを記帳している	生計を共にする家族はいない(単身世帯)
全体		(218)	58.3	29.4	12.4
年代別	49歳以下	(40)	70.0	20.0	10.0
	50代	(34)	47.1	41.2	11.8
	60代	(51)	56.9	33.3	9.8
	70歳以上	(93)	58.1	26.9	15.1
農家区分	農家	(80)	66.3	28.8	5.0
	非農家	(138)	53.6	29.7	16.7

🌸家計簿を記帳するのは「家計の把握のため」

家計簿をつける目的では、「家計の把握のため」が65.4%で、前回と同様突出している。次いで「日記として」「日々のやりくりのため」「農業収支の把握のため」がそれぞれ1割前後などとなっていた。

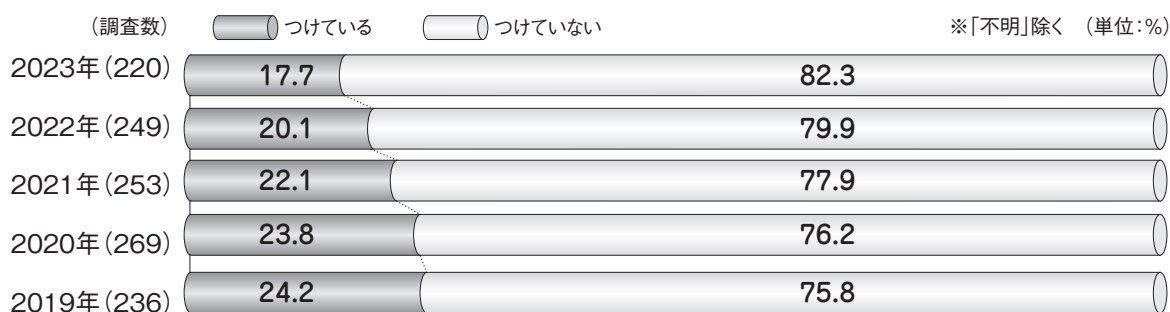
なお、「家の光家計簿」を所得税の簡易簿記として記帳している人は17.7%にとどまり、この5年間は漸減傾向が続いている。「家の光家計簿」を所得税の簡易簿記として記帳している人は、農家世帯でも33.8%にとどまった。

●家計簿をつける目的

※「不明」除く（単位：%）

		(調査数)	農業収支の 把握の ため	家計の 把握の ため	日々の やりくりの ため	ライフ プラン 実現のため	日記 として	その他
全 体		(182)	8.2	65.4	10.4	1.1	13.2	1.6
年代別	49歳以下	(31)	6.5	74.2	12.9	-	6.5	-
	50代	(34)	2.9	61.8	17.6	2.9	8.8	5.9
	60代	(40)	5.0	65.0	10.0	2.5	15.0	2.5
	70歳以上	(77)	13.0	63.6	6.5	-	16.9	-
農家区分	農家	(67)	20.9	58.2	4.5	-	13.4	3.0
	非農家	(115)	0.9	69.6	13.9	1.7	13.0	0.9
参 考	2021年	(222)	10.8	67.6	8.6	1.8	9.9	1.4
	2020年	(212)	9.0	66.5	7.5	0.5	15.1	1.4
	2020年	(226)	8.4	66.8	8.8	1.8	12.8	1.3

●所得税の簡易簿記としての使用



●所得税の簡易簿記としての使用【2023年詳細】

※「不明」除く（単位：%）

		(調査数)	簡易簿記として記帳している	簡易簿記として記帳していない
全 体		(220)	17.7	82.3
年代別	49歳以下	(39)	7.7	92.3
	50代	(38)	2.6	97.4
	60代	(52)	23.1	76.9
	70歳以上	(91)	25.3	74.7
農家区分	農家	(80)	33.8	66.3
	非農家	(140)	8.6	91.4

🍀 それぞれ自分なりの工夫をしながら記帳を続ける

家計簿の記帳で工夫している点を自由に回答してもらったところ、「毎日記帳する／なるべく早く記帳する」「日記を兼ねる／日記がわりにする」「レシートを活用する／レシートをしっかりと管理する」などの工夫が多く聞かれた。また、「厳しいルールをつくらない、あまり細かくつけすぎない」「週ごと、月ごとなど、まとめて記帳する」など、無理せず自分のペースにあわせて記帳しようとする工夫もみられた。

● 「家の光家計簿」の記帳で工夫していること

○ 毎日記帳する／なるべく早く記帳する（21人）

- ・年のせいか忘れることが多々あるが、正確に管理したいので毎日記帳するようにしている
- ・毎日決まった落ち着ける時間につける
- ・すぐにたまってしまうので、なるべく当日中に記帳する
- ・レシートをためずにこまめに記帳する
- ・お金を使ったらそのつと記帳している

○ 日記を兼ねる／日記がわりにする／備忘録にする（10人）

- ・日記欄にその日の心の状態を記し、目標へのステップアップに生かしている
- ・日ごろの出来事や気づいたことを書く
- ・天気から1日の出来事までを詳細に記入し、来年の作付けなどの参考にしている
- ・たいじなことや覚えておきたいことを余白にメモしておく

○ レシートを活用する／レシートをしっかりと管理する（10人）

- ・レシートをまとめておき、暇な時間に記入している
- ・記帳するときまでレシート、メモを保存しておく
- ・どんなに少額のレシートでも専用の箱に入れるよう家族でルール化している。レシートのない時はメモ書きを入れてもらっている
- ・レシートは記帳とクレジット支払いの確認のためにできるだけ残す

○ 厳しいルールをつくらない、あまり細かくつけすぎない（8人）

- ・こまごまと記帳せず、重要なものをわかりやすくし、続けやすくしている
- ・店で買った物を詳細に（野菜、果物など）書かない
- ・完璧を求めずに自分のできる範囲とする
- ・自分なりのやり方で正確さはこだわらずに大ざっぱにつけている

○ 週ごと、月ごとなど、まとめて記帳する（5人）

- ・ 毎日記帳せず一週間に一度くらいにして無理をしないようにしている
- ・ 毎日は無理なので、最低でも1週間以内に記帳するようにしている

○ 色分けしたり見出しをつけるなど、見やすくする（5人）

- ・ 誰が見てもわかりやすいようにだいじなところは色を変えている
- ・ ページ端に見出しを書き込みわかりやすくしている

○ その他の工夫

- ・ 前年同月と比較することで今月は出費を抑えようという意欲につながる
- ・ 日々の記帳よりも月々の支出記帳に重点をおく
- ・ もらい物と贈り物の記帳は忘れてしまうのでかなり細かく書いている

【協力者の声「家の光家計簿」についての意見・感想】

内容が充実している家計簿なので、もっと細かく記帳したいと思っている。「家族の10年ライフプラン」は、孫たちの成長を楽しみにしながら書いている。

(栃木県・79歳)

JAクレジットカードの使用が増えている。後払い控えのスペースが少ないので、ページを増やしてほしい。

(京都府・75歳)

料理が好きなので、簡単なレシピを載せてほしい。

(兵庫県・82歳)

レシート袋が付いているといい。その日のうちに記入できなかったときに袋に入れておいて後日確認することがあるので。

(宮城県・62歳)

忙しくなってきたので、1か月ぶんをまとめて2~3ページくらいで記帳できる家計簿が欲しい。

(広島県・40歳)

昔から変わらない「家の光家計簿」は使いやすい。これからも『家の光』を購読し続けたい。

(長野県・63歳)

毎月の「家事コラム」、「脳活ドリル」が息抜きになり、よい。また、日付欄があるのが気に入っている。

(北海道・60歳)

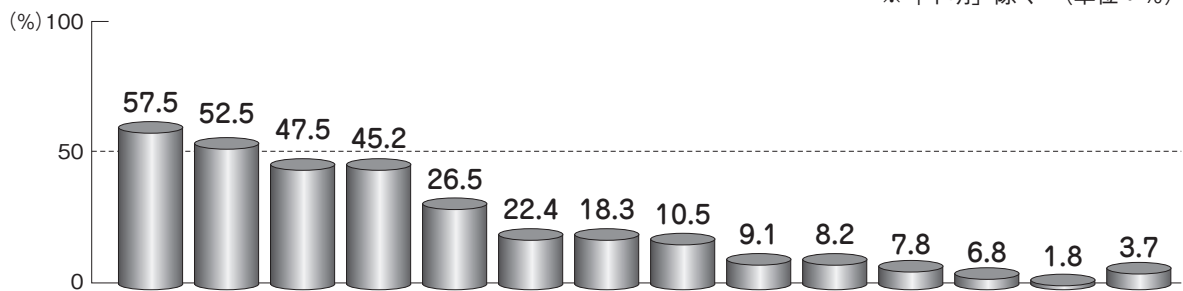
❁「家の光家計簿」の活用欄は、協力者の年代により相違

「家の光家計簿」の活用欄では、例年と同様「日記欄（栽培管理メモ含む）」がもっとも多い。次いで「医療費控え」「もらい物の控え」「贈り物の控え」「わが家の主な行事と予算」など。

協力者の年代別にみると、「日記欄」は年配層で活用率が高い。「贈り物の控え」「環境家計簿」も年配層での活用率が高い。一方、「家族の10年ライフプラン」「家族の10年マネープラン」などは若年層で活用率が高い傾向がみられる。

●「家の光家計簿」の活用欄

※「不明」除く（単位：％）



	(調査数)	日記欄 (栽培管理 メモ含む)	医療費の 控え	もらい物 の控え	贈り物 の控え	わが家の 主な行事 と予算	環境 家計簿	収支計算 準備表	家族の 10年 ライフ プラン	今月の 農業収支 の科目別 集計表	今月家計 に使った 自家 生産物	家族の 10年 マネー プラン	農産物 直売所の 売上げ 控え	農業収入 アップ プラン	その他
2023年	(219)	57.5	52.5	47.5	45.2	26.5	22.4	18.3	10.5	9.1	8.2	7.8	6.8	1.8	3.7
2022年	(250)	59.2	46.4	47.6	46.4	31.6	20.0	18.8	20.0	8.0	10.4	9.2	4.8	2.0	6.4
2021年	(249)	60.2	42.2	44.6	41.0	34.1	20.1	15.3	17.3	9.2	9.2	8.0	7.2	3.2	5.2
2020年	(264)	57.6	49.2	43.6	45.1	32.2	20.5	17.0	17.0	9.1	10.6	11.4	8.3	3.4	4.9
2019年	(223)	61.4	47.1	46.2	41.7	35.4	22.0	14.8	20.2	13.5	12.6	11.7	7.6	3.1	4.9

●「家の光家計簿」の活用欄【2023年詳細】

※「不明」除く（単位：％）

	(調査数)	日記欄 (栽培 管理 メモ 含む)	医療費の 控え	もらい物 の控え	贈り物 の控え	わが家の 主な行事 と予算	環境 家計簿	収支計算 準備表	家族の 10年 ライフ プラン	今月の 農業収支 の科目別 集計表	今月家計 に使った 自家 生産物	家族の 10年 マネー プラン	農産物 直売所の 売上げ 控え	農業収入 アップ プラン	その他	
全体	(219)	57.5	52.5	47.5	45.2	26.5	22.4	18.3	10.5	9.1	8.2	7.8	6.8	1.8	3.7	
年代別	49歳以下	(35)	31.4	60.0	45.7	34.3	40.0	11.4	11.4	17.1	8.6	8.6	17.1	5.7	5.7	-
	50代	(36)	33.3	52.8	41.7	33.3	25.0	19.4	16.7	22.2	5.6	-	13.9	-	-	2.8
	60代	(52)	61.5	55.8	48.1	50.0	19.2	21.2	21.2	7.7	9.6	9.6	3.8	11.5	1.9	1.9
	70歳以上	(96)	74.0	47.9	50.0	51.0	26.0	28.1	19.8	5.2	10.4	10.4	4.2	7.3	1.0	6.3
農家区分	農家	(79)	70.9	48.1	48.1	51.9	17.7	22.8	27.8	6.3	20.3	15.2	5.1	16.5	2.5	2.5
	非農家	(140)	50.0	55.0	47.1	41.4	31.4	22.1	12.9	12.9	2.9	4.3	9.3	1.4	1.4	4.3

🌸 記帳を続けて「毎日をたいせつに過ごすようになった」と感じる人が4割強

「家の光家計簿」を使用している理由を聞いたところ、「『家の光家計簿』を続けているから」が63.0%でもっとも多い。次いで「『家の光』を定期購読しているから」が45.8%、「他の家計簿にはない要素があるから」が26.9%、「記入欄が大きくて書きやすいから」が25.0%などとなっていた。

お金の使い方以外で「家の光家計簿」を使用してから変化したことへの解答は、「毎日をたいせつに過ごすようになった」が41.2%でもっとも多い。次いで「将来について深く考えるようになった」(28.0%)、「目標を持つようになった」(26.5%)などとなっていた。将来を視野に入れて日々をたいせつに過ごす意識が高まったことがうかがえる。また、「自分への理解が深まった」との解答も少なくなかった(20.4%)。

① 「家の光家計簿」を使用している理由

※「不明」除く (単位：%)

		(調査数)	『家の光』を定期購読しているから	『家の光』家計簿を続けているから	家計簿の大きさがちょうどよいから	紙が書きやすいから	記入欄が大きくて書きやすいから	他の家計簿にはない要素があるから	農業の要素が充実しているから	その他	特にない
全 体		(216)	45.8	63.0	19.0	14.4	25.0	26.9	8.8	13.9	4.2
年代別	49歳以下	(39)	38.5	38.5	23.1	30.8	38.5	20.5	7.7	10.3	5.1
	50代	(33)	45.5	63.6	15.2	12.1	9.1	15.2	3.0	15.2	9.1
	60代	(52)	50.0	69.2	17.3	9.6	25.0	21.2	11.5	15.4	3.8
	70歳以上	(92)	46.7	69.6	19.6	10.9	25.0	37.0	9.8	14.1	2.2
農家区分	農家	(80)	53.8	65.0	13.8	11.3	20.0	30.0	18.8	10.0	1.3
	非農家	(136)	41.2	61.8	22.1	16.2	27.9	25.0	2.9	16.2	5.9

② 「家の光家計簿」を使用してから変化したこと

※「不明」除く (単位：%)

		(調査数)	目標をもつようになった	将来について深く考えるようになった	家族への感謝する気持ちが強くなった	仕事への意欲が高まった	自分への理解が深まった	毎日をたいせつに過ごすようになった	その他	特にない
全 体		(211)	26.5	28.0	16.6	7.6	20.4	41.2	11.4	20.9
年代別	49歳以下	(38)	28.9	42.1	15.8	7.9	18.4	23.7	5.3	28.9
	50代	(34)	23.5	26.5	11.8	5.9	20.6	14.7	14.7	32.4
	60代	(51)	25.5	21.6	15.7	9.8	25.5	51.0	13.7	17.6
	70歳以上	(88)	27.3	26.1	19.3	6.8	18.2	53.4	11.4	14.8
農家区分	農家	(77)	24.7	31.2	19.5	13.0	24.7	40.3	10.4	19.5
	非農家	(134)	27.6	26.1	14.9	4.5	17.9	41.8	11.9	21.6

2023年 農家の家計実態調査 調査票

「農家の家計実態調査」にぜひご協力ください

1～10に記入していただき、別紙に①氏名(ふりがな)、②郵便番号、③住所、④電話番号、⑤所属JAをお書きのうえ、切り取って下記住所宛にお送りください。応募者全員に、調査結果報告書と薄謝(図書カード1000円分)を進呈します(回答内容に不備がある場合はお送りできないことがあります)。ご協力よろしくお願いたします

【送り先】〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 (一社)家の光協会「農家の家計実態調査」係
【締め切り】2024年2月5日(月)当日消印有効



1 あなたご自身のことについてご記入ください。

年齢	歳	職業	1 農業	5 専業主婦
性別	1 男性 2 女性		2 会社員・団体職員・公務員	6 学生
			3 農業以外の自営業	7 無職
			4 パート・アルバイト	8 その他

2 「2023年 家の光家計簿」決算表(P.233～235)から転記してください。

前年からの繰越高			円
収入	2023年1年間の決算結果	現金	自家生産物
	農業収入	円	
	農外収入	円	
	引出・処分・借入	円	
	収入合計	円	
家計支出	飲食費	円	円
	嗜好費	円	円
	衣服身回り品費	円	円
	住居・家財光熱水道費	円	円
	自動車交通費	円	
	保健衛生費	円	円
	学校教育費	円	
	教養文化費	円	円
	こづかい雑費	円	円
	交際費	円	円
	臨時費	円	円
その他の支出	農業支出	円	
	農外支出	円	
	租税	円	
	貯蓄	円	
	投資	円	
	返済	円	
	支出合計	円	円
翌年繰越残高			円

(裏面もご記入ください)

3 お住まいの都道府県と、同居している家族の人数を教えてください。

● () 都道府県 あなたを含めた同居家族人数 () 人

●同居しているご家族として当てはまるものを、次の中からすべて教えてください
(○はいくつでも)。

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 あなたの配偶者 (夫・妻) | 5 あなたの親・義親 |
| 2 子ども | 6 あなたの祖父母・義祖父母 |
| 3 子どもの配偶者 | 7 兄弟姉妹 |
| 4 孫 | 8 その他 () |

4 あなたの家の収入源を次の中から教えてください (○はいくつでも)。

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 農業収入→家庭の収入全体に
占める農業収入の割合
() % | 4 家族などからの仕送り・こづかい |
| 2 農外収入 (給与) | 5 その他 (雑収入・利子・家賃・
配当など) の収入
() |
| 3 年金 | |

5 農業の方は、作物の種類・作付け面積を記入してください。

主なものは○で囲ってください。(例：水稲 100a、ナシ 70a、家庭菜園など)
()

6 家計簿をつける目的を教えてください (○はひとつだけ)。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 農業収支の把握のため | 4 ライフプラン実現のため |
| 2 家計の把握のため | 5 日記として |
| 3 日々のやりくりのため | 6 その他 () |

7 家計簿の記帳の方法を教えてください (○はひとつだけ)。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 家計全体を記帳 | 3 金額の大きなものだけを記帳 |
| 2 家計の一部の費目だけを記帳 | 4 その他 () |

8 「家の光家計簿」の中で活用している記帳欄を教えてください (○はいくつでも)。

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 日記欄 (栽培管理メモ含む) | 8 医療費控え |
| 2 今月の農業収支の科目別集計表 | 9 環境家計簿 |
| 3 今月家計に使った自家生産物 | 10 わが家の主な行事と予算 |
| 4 収支計算準備表 | 11 家族の10年ライフプラン |
| 5 農産物直売所の売上控え | 12 家族の10年マネープラン |
| 6 もらい物の控え | 13 農業収入アッププラン |
| 7 贈り物の控え | 14 その他 () |

9 「家の光家計簿」を所得税の簡易簿記として記帳していますか？

(1を選んだ方はa、bどちらかに○を)

- | | |
|--------------------------|-----------|
| 1 記帳している (a 青色申告 b 白色申告) | 2 記帳していない |
|--------------------------|-----------|

10 家計簿の記帳に関して工夫している点があれば教えてください。

()

ご協力ありがとうございました。

※個人情報、家の光協会のプライバシーポリシーに基づき、適正に取り扱います。

農家の家計実態調査 アンケート

都道 府県 所属・最寄りのJA名 年齢 歳

●2022年と、2023年を比べたときの、みなさんの支出の変化について教えてください。

①家計について、支出が増えたものがあればお選びください。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 飲食費 | 8 教養文化費 (レジャー費含む) |
| 2 嗜好費 | 9 こづかい・雑費 |
| 3 衣服身の回り品費 | 10 交際費 |
| 4 住居・家財・光熱水道費 | 11 臨時費 |
| 5 自動車交通費 | 12 貯蓄・投資 |
| 6 保健衛生費 | 13 特になかった |
| 7 学校教育費 | |

その支出が増えた理由：

②家計について、支出が減ったものがあればお選びください。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 飲食費 | 8 教養文化費 (レジャー費含む) |
| 2 嗜好費 | 9 こづかい・雑費 |
| 3 衣服身の回り品費 | 10 交際費 |
| 4 住居・家財・光熱水道費 | 11 臨時費 |
| 5 自動車交通費 | 12 貯蓄・投資 |
| 6 保健衛生費 | 13 特になかった |
| 7 学校教育費 | |

その支出が減った理由：

③物価高騰が続いていますが、意識的に購入を控えるようになったものはありますか。(〇はいくつでも)

また、どういったものをどのように控えているかを具体的に教えてください。

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 飲食費 | 8 教養文化費 (レジャー費含む) |
| 2 嗜好費 | 9 こづかい・雑費 |
| 3 衣服身の回り品費 | 10 交際費 |
| 4 住居・家財・光熱水道費 | 11 臨時費 |
| 5 自動車交通費 | 12 貯蓄・投資 |
| 6 保健衛生費 | 13 特になかった |
| 7 学校教育費 | |

具体的な内容

●記帳について伺います。

あなたが記帳している家計の範囲について教えてください。(○はひとつだけ)

- 1 生計を共にする家族がおり、その家族のぶんも記帳している
- 2 生計を共にする家族がいるが、自分の収支のみを記帳している
- 3 生計を共にする家族はいない(単身世帯)

●「家の光家計簿」について伺います。

①「家の光家計簿」であなたが活用している項目はどれですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 今年の主な行事と予算 | 9 預貯金・借入金・ローンの控え |
| 2 10年ライフプラン | 10 家族の保障(共済・保険)控え |
| 3 10年マネープラン | 11 わが家の財産の控え |
| 4 日記 | 12 減価償却の控え |
| 5 栽培管理メモ | 13 医療費控え |
| 6 直売所の売り上げ控え | 14 環境家計簿 |
| 7 もらい物の控え・贈り物の控え | 15 農業収入アッププラン |
| 8 後払い(カード買い、掛け買い)控え | 16 特にない |

②「家の光家計簿」を使用している理由は何でしょうか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 『家の光』を定期購読しているから | 5 記入欄が大きくて書きやすいから |
| 2 「家の光家計簿」を続けているから | 6 他の家計簿にはない要素があるから |
| 3 家計簿の大きさがちょうどよいから | 7 農業の要素が充実しているから |
| 4 紙が書きやすいから | 8 その他(下の空欄にご記入ください) |
| | 9 特にない |

その他の理由

③ お金の使い方以外で、あなたが「家の光家計簿」を記帳してから変化したことがあれば教えてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 目標をもつようになった | 5 自分への理解が深まった |
| 2 将来について深く考えるようになった | 6 毎日をたいせつに過ごすようになった |
| 3 家族への感謝する気持ちが強くなった | 7 その他(下の空欄にご記入ください) |
| 4 仕事への意欲が高まった | 8 特にない |

その他の内容

●「家の光家計簿」についてご意見、ご感想などがあればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

※返信用封筒に、このアンケート用紙と、調査票、別紙を同封してお送りください。

「JA全国女性組織協議会」の組織及び活動の概要

① はじめに

JA女性組織とは、JAをよりどころとして、食や農、暮らしに関心のある女性が集まって活動する組織で、戦前に存在した産業組合婦人会などの影響を受けながら、戦後間もない1947年ごろから全国各地で誕生しました。わたしたちJA全国女性組織協議会は、各地の単位組織の全国的な統括組織として、1951年に全国農協婦人団体連絡協議会として発足、1995年に名称を改めて現在に至っています。

JA女性組織は農家でも、農家でない人でもだれでも気軽に参加でき、そのメンバーには20代から90代まで、幅広い世代の人がいます。全国のほとんどのJAにあり、全国で551組織、約42万人のメンバーがいます（令和5年12月時点、複数の組織が存在するJAもあります）。

食や農に関わる食農教育や地産地消への取り組みをはじめ、助けあい活動（高齢者福祉）、環境保全活動などの社会的な活動のほか、趣味や健康増進といった娯楽や生きがいつくりにも取り組んでいます。

② 組織の目的

私たちは全国共通の「綱領」を以下のように定めています。

【JA女性組織綱領】

- 一、わたしたちは、力を合わせて、女性の権利を守り、社会的・経済的地位の向上を図ります。
- 一、わたしたちは、女性の声をJA運動に反映するために、参加・参画をすすめ、JA運動を実践します。
- 一、わたしたちは、女性の協同活動によって、ゆとりとふれあい・たすけあいのある、住みよい地域社会づくりを行います。

綱領が定められたのは、1967年のこと。全国各地の「農協婦人部」が、同じ目的を持つと討議を重ねて練り上げた文言です。1995年に改訂しましたが、おもな改訂は、<農村婦人>を<女性>に、<農村>を<地域社会>に変えたこと、JA運動への女性の参画に力点を置いたことで、わたしたちが目指す方向性は一貫しています。

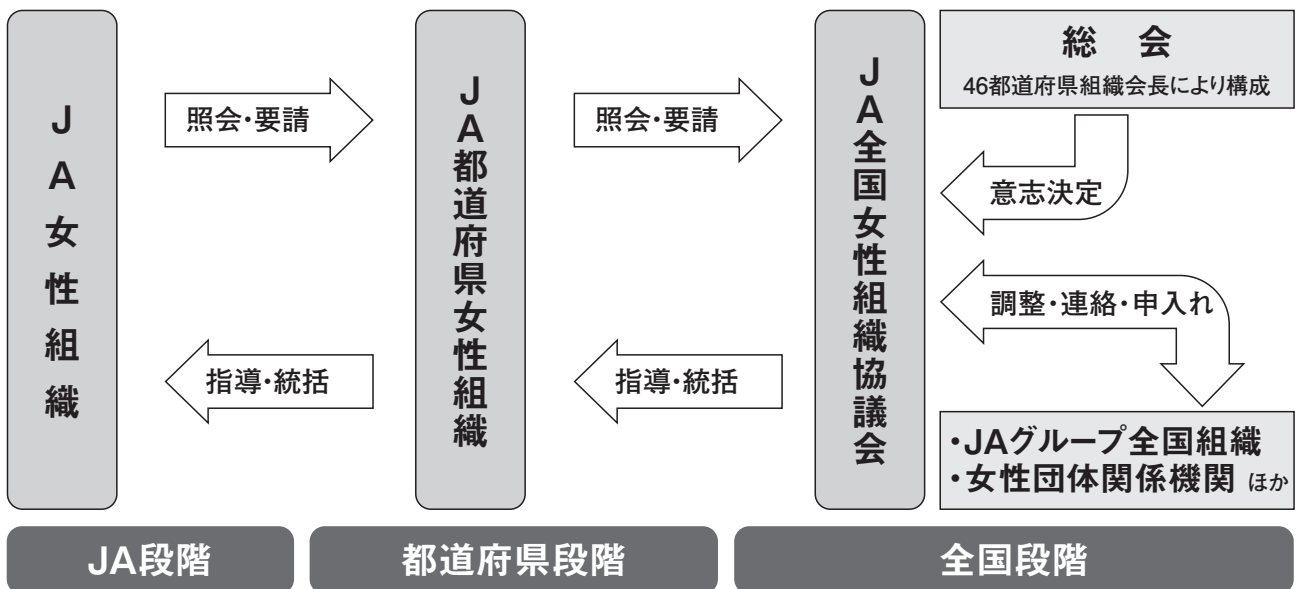
綱領には、<力を合わせて>や<女性の協同活動によって>という言葉があります。これは、女性がまなざしをひとつの方向に定め、自分たちがやりたいこと、実現したいことを見つめ、その目標達成に向かって、力を結集して行動することを示しています。

この綱領は、「わたし」から始まり、JAというメンバーシップを持つ「仲間」、さらに「地域」へと活動視野を広げていくことを明らかにしています。個人が基本なのは当たり前ですが、それに留まらず、地域社会の担い手である<わたしたち>が地域に責任を持って、地域をよりよい方向へ向けるために活動していこうというものです。

3 組織機構

わたしたちJA女性組織は、その活動のよりどころを「JA」としています。この単位組織を、都道府県域で統轄する「JA都道府県女性組織協議会」が各都道府県で結成されており、この都道府県域組織を全国的に統轄するのが「JA全国女性組織協議会」です。

JA全国女性組織協議会は、都道府県組織の代表者（会長）によって組織され、年1回の総会の決議によって、全国的な活動方針の策定を実施します。また、JAグループの全国組織への申し入れや女性団体・各関係機関との連絡・調整、資料・学習資料の作成、全国研修会の実施などをおもに行っています。



また、近年は「JA運営への女性の参画」運動の成果として、理事の中からJAグループ全国組織の役員に就任したり、政府主催の審議会、JA全中の専門委員会へ参画するメンバー、また、地元のJAで、理事や経営管理委員などに就任して活躍する方も増えています。

「一般社団法人 家の光協会」の組織及び活動の概要

① 組織の概要

一般社団法人 家の光協会は、JAグループの一員として協同組合精神にのっとり、出版文化活動を通じて農村文化の向上に寄与することを目的とした公益法人です。家の光協会の会員は計52団体。47都道府県JA中央会とJA全国組織などで構成されています。

② 家の光協会の5つの実践

- (1) 協同の心・協同の力をJA内外に普及・広報します。
- (2) 雑誌・図書などの持つ力を最大限発揮し、食と農をはじめとした多彩な企画を提供します。
- (3) 仲間づくり、生活文化と農家所得の向上、JAへの結集を促す“今日的”な記事活用を提案・強化します。
- (4) 食と農、読書を基軸に、広く地域に貢献する公益事業を展開します。
- (5) 農協運動の底力となるために、自由な発想を持ってたゆまぬ事業革新を続けます。

③ 出版活動

本会は、JA組合員や地域住民の多様な文化的ニーズに応えるために、月刊誌『家の光』『地上』『ちゃぐりん』、隔月刊『やさしい畑』、農業・料理・健康を中心とした「家の光図書」の発刊とともに、それらの記事を活用した多種多様な文化活動を展開し、地域全体が有機的に結びつく足がかりをサポートしています。

とくに柱となる家庭向け雑誌『家の光』は、大正14年創刊で、95年以上にわたり農村文化の向上、生活の改善に貢献してまいりました。また、JA全国女性組織協議会と協力して、暮らしの計画化や自分らしい幸せづくりをめざし、「ハッピーマイライフ」運動を展開しています。なお、今回の調査は12月号別冊付録「家の光家計簿」の記帳者の協力を得て、実施しています。

④ 文化活動

JAの教育文化活動を専門的に補完・支援する団体として、JAの教育文化活動を充実、強化する活動を積極的に展開し、文化と協同の力で21世紀が心豊かな時代となるよう、記事を活用した教育文化活動を行っています。

⑤ 公益的活動

読書を通じて子どもたちの食と農への理解・関心を促進する活動や、図画コンテストを通じた国際交流・親善を促進する活動などを行っています。

「家の光家計簿」 費目一覧



バッチリ記帳



簡単記帳

		費目の内容		
収入	農業収入 農外収入	●農業収入 農畜産物の販売収入。自家生産物の見積額。農作物共済などの割戻金。 ●農外収入 勤め先収入（給与、パート・アルバイト収入）など。事業収入（商工業、林業、水産業、不動産業など）。退職金。年金。預貯金や貸付金の受取利息。企業発行のポイント、各種の配当金。祝い金、見舞金。家賃収入、貸付地代。もらい物の見積額。 ★ ₁ つけ落とし（財布の中の現金が計算残高より多いとき）。★ ₂ 不明金	収入	入
	引出・処分 借入	●引出 JA貯金などの引き出し。JAの養老生命共済、年金共済、建物更生共済など貯蓄的要素のある共済（保険）受取金。貸付金の回収金。 ●処分（固定資産売却）田、畑、山林、宅地などの土地、建物、山林立ち木などの売却額。 （有価証券売却）国債、株式などの売却額。 ●借入 JA、公庫、個人などからの借入金、各種ローン。育英資金、母子福祉資金などの借り入れ。		
家計支出	飲食費	穀類、野菜、豆、イモ類、海藻、乾物。肉、魚介、卵、牛乳・乳製品。調味料。調理済み食品、冷凍食品。持ち帰り弁当。外食。学校給食費。	食べる	
	嗜好費	酒類。茶、コーヒーなどの飲料。菓子。果物類。		
	衣服 身回り品費	衣類、履物、腕時計、バッグなどの購入・修理代。仕立て、洗い張り、染めなどの代金。クリーニング代。	着る	
	住居・家財 光熱水道費	住居の修繕費。畳、建具の購入代。建物火災共済（短期）の掛金。庭木の手入れ賃。家具、家電、台所・裁縫用品、家庭用大工道具、住居用品などの購入・修理代。粗大ゴミ処理手数料。家電リサイクル料。家庭用光熱水道費。		
	自動車 交通費	家庭用自動車、オートバイなどの燃料費。家庭用自動車、オートバイ、自転車などの購入・維持費。任意の自動車共済などの掛金。電車・バス・タクシー代。交通系ICカードなどで支払った運賃。	住む	
	保健衛生費	洗剤、石けんなどの保健衛生用品代。眼鏡、介護用器具、血圧計などの購入代。理容・美容代。化粧品代。診察料、受診料、薬代。		
	学校教育費	授業料。受験料。入学金。学級費。クラブ活動費。PTA会費。通学定期代。修学旅行費。教科書、参考書、文房具などの購入代。予備校・塾の月謝などの学習関連費。	遊ぶ・学ぶ	
	教養文化費	テレビ、カメラ、パソコン、スマートフォン、ピアノ、勉強机などの購入・修理代。スポーツ用具類。玩具。学習用以外の文房具。CD・DVD代。ペットの費用。テレビ等の受信料。インターネット料金。CD・DVD レンタル料。映画館などの入場料。チケット代。各種学校・稽古事の月謝、教材費。旅行代。行楽費。新聞・雑誌・書籍代。切り花・鉢花代（贈答用は除く）。		
	こづかい 雑費	こづかい。クレジットカードの年会費。宝くじ代。さい銭。たばこ代。紛失金。罰金。 ★ ₁ つけ落とし（財布の中の現金が計算残高より少ないとき）。★ ₂ 不明金。	こづかいなど	
	交際費	電話の通信用料。電報料。郵便料金。宅配便の料金。他家への婚礼、出産などの祝い、見舞い、香典などの贈答品。中元、歳暮、他家への贈答品代。来客などの食事代。	おつきあい	
<臨時費>	自家の婚礼、葬儀。還暦などの祝い、法事、住宅の新築・増改築など、多額の臨時的支出。	臨時費		
農業支出 農外支出 <租税> (公課・諸負担含む)	●農業支出 種子、苗、農機具などの購入費。臨時雇用費。共同防除費。作業委託料。農業用自動車の購入・維持費、燃料費。糞すり・精米賃。納屋、畜舎などの新築・修繕費。土地改良負担金。支払い小作料、請負耕作料。農業用衣服代。林業関係費。農業災害の共済掛金。農業用光熱水道費。 ●農外支出 事業関係（商工業、水産業、不動産業など）の経費。事業用自動車の購入・維持費、燃料費。通勤交通費。借入金の支払利息。 ●租税 税金。地区・集落協議費。JA、生産組合の組合費。JA女性組織会費。国民健康保険、介護保険などの社会保険料。農業者年金、公的年金。労災保険、自動車損害賠償責任共済。祭り・寺社への寄付金など。	その他の支出		
貯蓄・投資 <返済>	●貯蓄 JA貯金などへの預け入れ。JAの養老生命共済、年金共済、建物更生共済などの長期で貯蓄的要素のある共済（保険）の掛金。貸付金。プリペイドカードの購入、電子マネーへのチャージ。 ●投資（固定資産購入）田、畑、山林、宅地などの土地、建物、山林立ち木などの購入。 （有価証券購入）JAへの出資。国債、株式などの購入。 ●返済 JA、公庫、個人などからの借入金、各種ローンの返済。育英資金、母子福祉資金などの返済。			

費目の分け方

●支払金額の使い道によって分類します。
●「家計に使った自家生産物」も、この費目で分類します。
●バッチリ記帳の場合は、マーク、簡単記帳の場合は、マークの内容で分類してください。

*費目の分け方は、基本的には用途で分類しますが、各家庭の把握したい内容に応じて分類を変えてもかまいません。共済などの掛金は、短期で貯蓄的要素のないものは用途で分類します。

- (例1) 自動車の購入・維持費
(例2) 各種共済掛金

- 家庭用→自動車交通費（家計支出）
- 農業用→農業支出
- 農業以外の事業用→農外支出
- 任意の自動車共済→自動車交通費（家計支出）
- 自動車損害賠償責任共済→租税

*租税（公課・諸負担含む）には、世帯の自由にならない、強制力がある支出（所得税など）や、さまざまな負担金などを計上します。
*家計支出のうち、多額で、毎年発生しないものは臨時費に分類し、経常的な家計支出と区分しておく、家計費の分析のさい便利です。
*★₁はバッチリ記帳、★₂は簡単記帳に使用します。

農業の一般的な勘定科目

農業の必要経費のうち、どの勘定科目にも当てはまらないものは雑費にしますが、多額になった支払いには「教育図書費」「宣伝費」など、自分の農業に合った勘定科目を設定してください。

	勘定科目	省略文字	勘定科目の内容や具体例
収入金額	販売金額	販	農産物を販売した金額
	家事消費(事業消費)金額	家	農産物を家事および事業(雇人費の現物支給など)のために消費した場合に、収穫したときの地域の生産者販売価額で算出
	雑収入	入	受取共済金(農業共済など)や出荷奨励金、農作業受託料など
経費	雇人費	雇	常雇・臨時雇人などの労賃および賄い費
	小作料	小	農地の賃借料
	賃借料	賃	農地以外の土地、建物の賃借料、賃耕料、農機具の賃借料、JAなどの共同施設の利用料
	減価償却費	減	建物、農機具、車両、搾乳牛などの固定資産の取得価額をその耐用年数に応じて分けた経費(耐用年数は資産の内容ごとに法令で定められています。ただし、取得価額が10万円以上20万円未満の場合は、資産の内容にかかわらず3年間で均等に分けて償却することができます。また、取得価額が10万円未満の場合は取得価額の全額を必要経費にすることができます)
	貸倒金	貸	相手の倒産などで回収できなくなった売掛金などの貸倒損失
	利子割引料	利	事業用の借入金の利子や受取手形の割引料など
	委託費用	委	農機具等を使用しておこなう農作業などの委託費用
	固定資産等の損失	固	事業用固定資産等の取り壊しや災害による滅失などの場合の損失
	租税公課	税	①税込み経理方式による消費税等納付税額、事業税、固定資産税(土地、建物、償却資産)、自動車税(取得税、重量税を含む)、不動産取得税などの税金のうち農業用部分の金額 ②水利費、JA組合費などの公課 (所得税、相続税、住民税、国民健康保険税、国民年金の保険料、国税の延滞税・加算税、地方税の延滞金・加算金、罰金、科料、過料、交通反則金などは必要経費になりません)
	種苗費	種	種籾、苗類、種イモなどの購入費用
	素畜費	畜	子牛、子豚、ひななどの取得費および種つけ料
	肥料費	肥	肥料の購入費用
	飼料費	飼	飼料の購入費用
	農具費	具	使用可能期間が1年未満か取得価額が10万円未満の農具の購入費用 (取得価額が10万円未満であるかどうかは、税込み経理方式または税抜き経理方式に応じ、その適用している方式により算定した金額によります)
	農薬衛生費	薬	農薬の購入費用や共同防除費
	諸材料費	材	ビニール、むしろ、縄、釘、針金などの諸材料の購入費用
	修繕費	修	農機具、農業用自動車、建物および施設などの修理に要した費用
	動力光熱費	動	電気料、水道料、ガス代、灯油やガソリンなどの燃料費のうち農業用部分の金額
	作業用衣料費	衣	作業衣、地下足袋などの購入費用
	農業共済掛金	共	水稲、果樹、家畜などにかかる共済掛金
荷造運賃手数料	荷	出荷のさいの包装費用、運賃や出荷(荷受)機関に支払う手数料	
土地改良費	土	土地改良事業の費用や客土費用	
雑費	雑	農業経営上の費用で他の経費に当てはまらない経費	

国税庁「帳簿の記帳のしかた(農業所得者用)」を参考に作成

2024年6月発行

非 売 品

発 行 所 一般社団法人 家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11
電話 03-3266-9035
FAX 03-3266-9049

制 作 一般社団法人 家の光協会 普及企画部

調査分析 内田哲郎

調査協力 統計調査センター株式会社

